

光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)  
ステージゲート評価結果 (5年目)

1. 研究開発課題名

超伝導量子コンピュータの研究開発

2. 研究代表者名 (所属機関名・職名は評価時点)

国立研究開発法人理化学研究所 量子コンピュータ研究センター・センター長  
中村 泰信

3. ステージゲート評価結果 (5年目)

○結果

5年目ステージゲート通過とする

○評点

S:評価項目を満たしており、特に優れたところが認められる

○総合評価コメント

超伝導量子コンピュータの開発に関して、ステージゲート目標を達成している。日本の粋を集めて、量子コンピュータチップ開発だけでなくフルスタックで研究開発が推進されている点は高く評価できる。研究代表者の強力なリーダーシップの下で、人材育成、産学連携、アウトリーチが積極的に行われていることも極めて高く評価できる。以上により、継続が妥当であると判断する。

今後、垂直配線方式や超伝導3次元実装などの優位性・独自性を活かしながら、国産量子コンピュータ開発とクラウド利用を実施し、最終目標の達成に向けた研究開発の推進を大いに期待する。そのためにも、富士通を始めとする民間企業や量子技術イノベーション拠点との連携をこれまで以上に加速するとともに、Q-LEAPでカバーできない技術課題に対しては、ムーンショット、NEDOプロジェクト等との協調を推進することが望まれる。

以上